



■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

= BEE0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★

BEE=1.0

環境品質 G

環境負荷 I

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆ 30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算

■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト

項目	建設	修繕・更新・解体	運用	オンサイト	オフサイト	合計 (%)
①参照値	10%	5%	85%	0%	0%	100%
②建築物の取組み	10%	5%	90%	0%	0%	101%
③上記+②以外の	0%	0%	0%	100%	0%	101%
④上記+オフサイト手法	0%	0%	0%	0%	100%	101%

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

環境品質	スコア
音環境	3.2
温熱環境	3.0
光・視環境	3.3
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

項目	スコア
機能性	3.6
信頼性	3.0
対応性	2.7
Q2のスコア	3.1

Q のスコア = 2.9

Q3 室外環境（敷地内）

Q3のスコア = 2.2

Category	Score
生物環境	1.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5
Q3 平均スコア	2.2

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

Category	Score
建物外皮の熱負荷	3.0
自然エネルギー	2.0
設備システム効率化	2.8
効率的運用	3.0

信頼性 更新性

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

項目	スコア
水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.7
汚染物質回避	3.0

LR のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=2.8

Category	Score
地球温暖化への配慮	2.9
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.2

総合 LED照明を採用、また玄関照明には人感センサーを採用することで一次エネルギー消費量を抑えています。敷地内には可能な範囲で緑地を設け周囲からの景観に配慮しています。	
Q1 室内環境 F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。また、カーテン・庇（バルコニー）により昼光制御にも努めています。	Q2 サービス性能 給排水配管は更新必要間隔の長い配管を使用しており、維持管理しやすい設計としています。
LR1 エネルギー 特になし。	LR2 資源・マテリアル 解体時にリサイクルを促進する対策として、躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料を使用しています。

その他
特になし。
Q3 室外環境（敷地内）
特になし。
LR3 敷地外環境
屋外に漏れる光を点滅させたり、着色したりしないことから、 外に漏れる光への対策が取れています。 また広告物照明を設けません。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)サムティ名古屋市名東区一社3丁目 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	2.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.7



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。